

ぶんかざいまるちなび

文化財知ナビ

No.32

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

どうしていゆうけいぶんかざい かみのくにはちまんぐうほんでん 道指定有形文化財 上ノ國八幡宮本殿

かみのくにはちまんぐう ぶんめい ねん
上ノ國八幡宮は、文明5年(1473)
まつまえし そ たけだのぶひろ かつやまだて
に松前氏の祖である武田信廣が勝山館の
だてがみ そうりつ つた
館神として創立したと伝えられています。
ほんぐう かみのくにさんじゃ まつまえはん
本宮は上ノ國三社の一つとされ、松前藩
との深い繋がりによって崇敬されてきた
れきし
歴史をもっています。

かみのくにはちまんぐうほんでん そうえい
上ノ國八幡宮本殿の造営は、
ふくやまひふ げんろく ねん
『福山秘府』が伝える元禄12年(1699)
と推定されています。明治9年(1876)
に郷社となり、さらに江差正覚院より
きゆうこんびらどう ゆず う はいでん めいじ
旧金比羅堂を譲り受け拝殿とし、明治27
ねん かつやまだて げんざいち いてん
年(1894)に勝山館から現在地に移転し
ました。

かみのくにはちまんぐうほんでん ほっかいどうない げんぞん じんじゃけんちく さいこ けんそうぶつ ほんでん
上ノ國八幡宮本殿は、北海道内に現存する神社建築としては最古の建造物とみられ、本殿の
きほ けいしき いっけんしやながれづくり やね ゆる そ ぜんめん こうはい
規模と形式は、一間社流造であり、屋根は緩やかな反りをつけ前面の向拝まで延びていま
す。本殿の妻面の虹梁と大瓶束、母屋の木鼻などの絵様と彫形は張りのある洗練された意匠
となっています。

また、なが おおい や ほご ぜんたいてき もくぶ ふうしょく すく ほんぞんじやうたい
長く、覆屋で保護されてきたことから、全体的に木部の風蝕が少なく保存状態が
りようこう
良好です。

かみのくにはちまんぐうほんでん え と ぜんき けいたい ほっかいどう じんじゃほんでん
上ノ國八幡宮本殿は江戸前期の形態をよくとどめており、北海道における神社本殿として
れきしてきかち たか
歴史的価値の高いものです。



上ノ國八幡宮本殿（正面）



つまめん しゃんした こうりよう たいいづか
妻面（写真下から虹梁、大瓶束）



こうはい

民族共生象徴空間

～豊かな伝統を現代に、そして未来へ～



「民族共生象徴空間」は我が国の先住民族であるアイヌの人たちの文化を広めるための国立の施設です。

平成32年（2020）に、北海道白老町ポロト湖畔に、国立のアイヌ民族博物館、民族共生公園などがオープンします。

「民族共生の象徴となる空間」（象徴空間）は、平成21年（2009）7月に内閣官房長官に提出された「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告で、今後のアイヌ政策の「扇の要」となる政策として提言されました。

この象徴空間は先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、アイヌ文化が直面している課題に対応しつつ、我が国が将来に向け、多様で豊かな文化や異なる民族との共生を尊重する社会を形成するためのシンボルとなるものです。

象徴空間の「ナショナルセンター」として、次のような機能を備えることが期待されます。

〇展示等機能

- 先住民族としてのアイヌの歴史、文化等の総合的・一体的な展示、実践的な調査研究、伝承者等の人材育成
- 国立を含め、国が主体的に文化施設（博物館等）を整備

〇体験・交流機能

- 文化伝承・体験学習活動（伝統的家屋、山・海・川の活用）
- 国内外の文化との交流（海外の先住民族文化との交流等）

〇文化施設周辺の公園機能

- 豊かな自然を活用した憩いの場等の提供

〇アイヌの精神文化を尊重する機能

- 伝統的儀式を行える広場等
- 大学等にあるアイヌ人骨のうち、遺族等への返還の自処が立たないものは、国が主導して象徴空間に集約し、尊厳ある慰霊に配慮

文化財ニュースレター 文化財まる知ナビ No.32

発行 平成29年3月31日 編集・連絡先 北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

【お問い合わせはこちらへ】 電話 011-231-4111（内線）35-621 メール kyoiku.bunka2@pref.hokkaido.lg.jp